

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	オーケストラ等
----	----	----	---------

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんぐんまこうきょうがくだん 公益財団法人群馬交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://www.gunkyo.com/
代表者職・氏名	理事長 山本一太		
制作団体所在地	〒 370-0841	最寄り駅(バス停)	JR高崎駅
	群馬県高崎市栄町9番1号		
電話番号	027-322-4316		
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじんぐんまこうきょうがくだん 公益財団法人群馬交響楽団	団体ウェブサイトURL	https://www.gunkyo.com/
代表者職・氏名	理事長 山本一太		
公演団体所在地	〒 370-0841	最寄り駅(バス停)	JR高崎駅
	群馬県高崎市栄町9番1号		
制作団体 設立年月	昭和20年11月		
制作団体組織	役員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 山本一太(群馬県知事) 副理事長 富岡賢治(高崎市長)他4名 専務理事 町田裕之	団体構成員 別紙「役員名簿」「評議員名簿」「楽団員名簿」参照 加入条件等 理事及び監事は、評議員会において選任する。 評議員は、評議員会において選任する。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	小林和広
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	井田宗宏(総務課長)R6.9現在
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	kobayashi@gunkyo.com		

<p>制作団体沿革・ 主な受賞歴</p>	<p>1945年戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して創立、1955年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。 1947年から始めた移動音楽教室は、2023年度までに延べ650万人を超える児童・生徒が鑑賞し、1982年からは高校音楽教室も開催されている。1981年から群馬県の支援により音楽活動を充実させ、1994年には「ブラハの春国際音楽祭」、「ウィーン芸術週間」から同時に招待を受け4カ国を巡る海外公演を実現。 2003年NHKテレビ番組「プロジェクトX～挑戦者たち～」で楽団の草創期が紹介され、2004年に天皇皇后両陛下、デンマーク国女王陛下同王配殿下をお迎えしての移動音楽教室を開催し、2014年には定期演奏会が500回に達した。 群馬交響楽団は、定期演奏会、移動音楽教室をはじめ幅広い音楽活動を展開し、群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されており、2020年に創立75周年を迎えた。 また、2019年9月に開館した「高崎芸術劇場」に活動拠点を移し、2023年4月に就任した飯森範親常任指揮者のもと、さらなる演奏活動の飛躍・向上を目指している。 1966年「朝日・明るい社会賞」、1983年文部大臣「地域文化功労者」団体表彰、1989年 第11回山本有三記念「郷土文化賞」、1994年「日本文化デザイン賞」、1995年「第4回日本生活文化大賞特別賞」、2001年 日本放送協会「関東甲信越 地域放送文化賞」、2017年県民芸術祭40周年記念表彰、2021年「サントリー地域文化賞」受賞。</p>			
<p>学校等における 公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●群馬県内小中移動音楽教室 ●群馬県内高等学校音楽教室 ●幼児移動音楽教室 (アンサンブル公演・幼、保、こども園) ●心に響く音楽会 (アンサンブル公演・児童館ほか) ■群響キャラバン“どこでも群響” (アンサンブル公演またはアウトリーチ 学童施設、子ども食堂、学習施設等) ・令和4年度実績 4日4公演 ■群響楽器セミナー(県内中学校吹奏楽部生徒対象の楽器講習会) ・令和5年度実績 10日10回 ■県外 子ども向けコンサート事前アウトリーチ ・令和5年度実績 中学校3校3公演 	<p>令和5年度実績</p> <p>43日77公演</p> <p>19日19公演</p> <p>17日17公演</p> <p>1日1公演</p>	<p>令和4年度実績</p> <p>37日66公演</p> <p>22日22公演</p> <p>14日17公演</p> <p>2日2公演</p>	<p>令和3年度実績</p> <p>16日30公演</p> <p>21日24公演</p> <p>13日16公演</p> <p>1日1公演</p>
<p>特別支援学校等における 公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●群馬県内小中移動音楽教室に合同で参加した特別支援学校 過去3年度分の実績 令和5年度実績 5校 76名 令和4年度実績 3校 71名 令和3年度実績 実施なし(予定していたがコロナ渦の影響により中止) ●群響キャラバン事業“どこでも群響” (コロナ渦において公演会場への外出が困難である方のためのアンサンブル公演またはアウトリーチ) 令和4年度実績 特別支援学校 3校6公演 201名 盲学校 1校1公演 14名 ●心に響く音楽会 (障がいのある子ども向けアンサンブル公演・障がい者等連絡協議会ほか) 令和3年度実績 2日 2公演 			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/kNAkEjXWG3U</p>			
<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>			
	<p>PW:</p>			

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人群馬交響楽団】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	オーケストラの魅力大発見！一緒に歌おう・奏でよう！！			
企画のねらい	初めてオーケストラの生演奏を聴く児童・生徒が、鑑賞の楽しさやその魅力を感じられるように、一度は耳にしたことのあるだろう名曲をはじめ、様々な曲想の演目を織り交ぜました。特に「草津節の主題による楽器紹介曲」は、群馬県の特徴を生かした音楽を全国の子供たちに届けたいとの思いで、地域の有名な民謡の一つである「草津節」をモチーフにした作品を独自に委嘱しました。オーケストラのそれぞれの楽器を、分かりやすく、そして楽しみながら知識を深める事ができるよう工夫して構成しています。様々な音楽形態を散りばめたセクションごとのアンサンブル演奏や司会による解説、そしてクライマックスではオーケストラと一体となり手拍子での児童・生徒の参加を交え、知識を深めながら楽しんで聴くことができます。公演全体を通して、特徴ある様々なリズムやテンポの作品、世界各国の作品を鑑賞することで、オーケストラを目の前で体感していただき、子供の豊かな感性の向上や情操の涵養をはかれるよう考えております。			
演目概要・演目選択理由	<p>●ロッシェニ／歌劇《ウィリアム・テル》序曲 から「スイス軍の行進」 ロッシェニは、イタリア・オペラの作曲家の中でも最も人気のある作曲家。1829年に発表されたこの序曲は4つの部分から成るが、本公演では有名なトランペットのファンファーレから始まる4つ目の部分を演奏し、盛大に公演の幕を開ける。</p> <p>●シュトラウスⅡ／ワルツ『春の声』 作品410 音楽の街、オーストリア・ウィーン。シュトラウス一家は19世紀後半以降、ウィーンの舞踏会や音楽祭には欠かせない存在。この作品は春の喜びにあふれたワルツで、1883年に初演されたもの。春を迎える人々の喜びの気持ちや、華やかな舞踏会の雰囲気を感じることができる。</p> <p>●大橋晃一／《草津節》の主題による楽器紹介曲 群馬交響楽団の本拠地・群馬県には温泉地が約100カ所あり、その中でも草津温泉は「日本三名泉」にも数えられる名湯。高温な湯が特徴の草津温泉では、お湯を冷ますために板でかき回して適温にする共同作業「湯もみ」が行われ、それに合わせて歌われる作業唄が民謡《草津節》で、1918年頃から歌われている。この《草津節》のモチーフを用いた楽器紹介曲を、楽団オリジナル作品として委嘱した。木管楽器、弦楽器、金管楽器、打楽器の順に、各楽器を紹介しながら進行する。個々の楽器の音色、セクション単位でのアンサンブルを聴き比べることができる。また、モチーフが優雅なワルツになったり、おしゃれなジャズアレンジに変身することで、様々な曲想の変化を聴いて学ぶことができる。児童、生徒は手拍子で参加する。</p> <p>●校歌 日頃ピアノ伴奏などで歌う校歌を、大迫力のオーケストラと共演する。慣れ親しんだ校歌の前奏が盛大に変身したのを耳にした瞬間から感動が生まれ、オーケストラとともに歌う喜びや歌い終えた時の達成感を実感し、改めて歌い継がれる身近な曲の素晴らしさを再認識することができる。編曲は日本の第一線で活躍する作編曲家に委嘱する。その楽譜は学校の新たな財産として寄贈させて頂いている。</p> <p>●ブラームス／ハンガリー舞曲 第5番 ト短調 ブラームスは、バッハやベートーヴェンと並び、ドイツを代表する作曲家。独特の音階とテンポの緩急に特徴がある音楽である。指揮者体験では、指揮者によるレクチャーと共にこの楽曲一部の指揮を体験することができる。</p> <p>●アンダーソン／プリंक・プランク・ブルンク アンダーソンは、アメリカの作曲家、指揮者。本作は全体を通じて、弦楽器はピッツィカート（弓を使わず指ではじく演奏法）で演奏される。「プランクPlank」は「板」あるいは「板の上で料理する」という意味で、「ブルンクplunk」は「弦をはじく」という意味である。そこに発音上の語呂合わせで「プリंकplink」を付け加えたと思われる。音楽に合わせて楽器を回転させるなどのパフォーマンスも交え、視覚的にも楽しんで鑑賞することができる。</p> <p>●ベートーヴェン／交響曲 第5番 八短調 作品67 「運命」から 第1楽章 クラシック音楽で最も知られた作品「運命」。特に「タタタターン」という出だしはよく知られており、このリズム・パターンがすべての楽章に形を変えて出てくることで、交響曲全体の統一が図られている。このような徹底した例は、1807-08年に作曲されたこの《運命》以前には存在しない。当時の多くの新しい工夫に満ちた、今もなお世界中の多くの人々に愛される傑作である。音楽鑑賞教材の定番ともいえる作品を、生演奏を通じてCD等の音源との違いや、その迫力を肌で体感することができる。</p> <p>●マスカーニ／歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》から 間奏曲 マスカーニが歴史に刻んだこの歌劇は、出世作であると同時に彼の代表作で、タイトルは「田舎風の騎士道」を意味する。シチリアの小村を舞台とした恋愛悲劇で、日常的な題材を扱っている。それまで得てして絵空事の世界であった歌劇に実際にありそうな内容を取り入れた点で、この曲は歴史に名を残した。間奏曲は、落ち着いた雰囲気にも包まれているが、それは悲劇の前の静けさを表している。イタリアの美しい景色やその鮮やかな色彩が眼に浮かぶような名作であり、オーケストラの“美しさ”を最も感じることができる作品である。</p> <p>●ビゼー／劇付随音楽《アルルの女》から ファランドール フランス・パリに生まれたビゼーが初めて大成功をもたらした作品が、1872年に発表した《アルルの女》第1組曲である。ドーデーの同名の戯曲に音楽を付けたあと、ビゼー自身がコンサート用の組曲を作った。〈ファランドール〉は組曲第4曲。戯曲ではクライマックスとなる第3幕の、幼なじみとフレデリックの婚約の祝宴場面に出てくるプロヴァンス地方の民謡と踊りである。作品に用いられるプロヴァンス太鼓の特徴的な音色も相まって、オーケストラならではの迫力で盛大に公演の幕を閉じる。</p>			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p>【全公演共通】</p> <p>■草津節 民謡をモチーフとしたオリジナルの楽曲のクライマックスでは、手拍子で参加していただきます。</p> <p>■校歌合唱 全校児童・生徒に、校歌をオーケストラ伴奏で歌って参加していただきます。</p> <p>【選択制】</p> <p>■指揮者体験コーナー 児童・生徒代表の方に、オーケストラを指揮していただく場を設けます。演出上、代表者に指揮して頂きますが、指揮者によるレクチャーのコーナーでは、会場全体と一緒に指揮をする形もとりますので、より一層一体感を感じて参加することができます。</p> <p>■一緒に歌おう 日頃歌っている曲を生のおケストラの伴奏で合唱していただきます。</p> <p>■吹奏楽部や合唱部との共演 参加希望がある場合はオーケストラの中に入って、一緒に演奏していただきます。</p>			

児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	3～10名 ※内容により変動
		鑑賞人数目安	体育館の広さにもよるが、500名程度が上限 ※通常の情勢下における人数
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>1.ロッシーニ/歌劇《ウィリアム・テル》序曲から「スイス軍の行進」 2.シュトラウス2世/ワルツ《春の声》 作品410 3.大橋昇一/《草津節》の主題による楽器紹介曲 4.選択コーナー ※a.～d.より1つ選択 a・指揮者体験コーナー ブラームス/ハンガリー舞曲 第5番 から b・一緒に歌おう（下記の中から1曲選択） 「となりのトトロ」から さんぽ/子どもの世界/大きな古時計/夏の思い出/翼をください/ビリーブ/パプリカ c・一緒に奏でよう（吹奏楽部等による共演例） 校歌 スーザ/星条旗よ永遠なれ シベリウス/交響詩《フィンランディア》 シュトラウスⅡ世/トリッチ・トラッチ・ポルカ（吹奏楽編曲） フォーレ/《ドリー》組曲より「子守歌」「ミ・ア・ウ」「スペインの踊り」（吹奏楽編曲） d・合唱部との共演（合唱部等との共演は、希望校毎に調整。ただしオーケストラ楽譜のある楽曲に限る。）</p> <p>5.校歌 6.ブラームス/ハンガリー舞曲 第5番 7.アンダーソン/プリंक・プランク・プルンク 8.ベートーヴェン/交響曲 第5番「運命」から 第1楽章 9.マスカーニ/歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》から「間奏曲」 10.ピゼー/劇付随音楽《アルルの女》第2組曲 から「ファランドール」 11.enc. シュトラウス1世/ラデツキー行進曲</p> <p>※4.の選択コーナーでaを選んだ場合、4.～6.の曲順は、6.→4.→5.の順に入れ替わります。</p> <p style="text-align: right;">公演時間 70 分</p>		
出演者	指揮：鈴木織衛、大井剛史、中田延亮、林 直之、和田一樹 司会：浅田美知瑠、岡田美優、和田美菜子 管弦楽：群馬交響楽団（2管10型）		
演目の芸術上の中核となる者（メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等）の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	■指揮：鈴木織衛 1996年ベルリンでのドイツ室内管弦楽団定期演奏会でコンサート指揮者デビュー。2010年より13年間にわたり、オーケストラ・アンサンブル金沢専任指揮者を務める。現在、多くの日本のオーケストラとの共演を重ねている。東京藝術大学指揮科講師。 ■指揮：和田一樹 2015年第6回ブカレスト国際指揮者コンクールにて準優勝。2017年にヤシ・モルドヴァ・フィルハーモニー管弦楽団を指揮しヨーロッパデビュー、毎シーズン客演するなど、国内外で指揮活動を展開している。武蔵野音楽大学非常勤講師。 ■司会：浅田美知瑠 日本大学芸術学部音楽学科音楽理論コース卒業。リトミック研究センター指導者会員。群馬交響楽団では、移動音楽教室、野外コンサート「森とオーケストラ」ほか多数の公演に出演。独自にお話し音楽会の企画、演出も行っている。		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者： 60 名 スタッフ： 9 名 <hr/> 合計： 69 名	運搬	積載量： 4 t 車 長： 10 m 台 数： 1 台

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	【A】8:00頃	8:00~10:00/リハ 10:30~12:45	14:00~15:10	無	15:20~16:30	17:00
	【B】10:00頃	10:00~12:00	13:30~14:40		14:50~16:00	16:30

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月
				2日
	10月	11月	12月	1月
	7日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。			計



【図1】ワークショップ



【図2】本公演・オーケストラ演奏
舞台設置に必要な面積
縦15m(舞台上長さ含む)×横20m

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)



【図3】本公演・指揮者体験コーナー

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人群馬交響楽団】

ワークショップのねらい	演奏会当日の鑑賞がより充実したものになるよう、より深くオーケストラや楽器の仕組み、音色の違いを体感できるように工夫をしている。また、演目には本公演で演奏する楽曲を必ず2曲以上、加えて元来オーケストラ楽曲ではない、より身近な耳なじみのある楽曲を1曲以上取り上げ、楽しみを感じながらワークショップに参加することで、オーケストラの生演奏に対する興味を促し、本公演のより充実した鑑賞に繋がることを目標としている。またワークショップにおいて、本公演曲のアンサンブルとオーケストラ編成の聴き比べが可能となることで、それぞれの特徴や良さを理解し、本公演終演時には、ワークショップ実施前とは比べられないような感性の向上と情操の涵養が望めるよう構成している。		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	体育館の広さにもよるが、500名程度が上限
ワークショップ実施形態及び内容	<p>【編成】 4名のアンサンブルによるレクチャー付きミニコンサートで実施。通常の弦楽四重奏ではなく、管楽器を加えた変則四重奏を必須とし、オーケストラへの興味・関心に繋げる編成とする。</p> <p>【構成】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①.耳なじみのある楽曲の演奏 ②.日常の中に隠されたクラシック楽曲の演奏 ③.本公演で演奏される楽曲のアンサンブル形態による演奏 ④.アニメテーマ等の自然と歌詞を口ずさんでしまうような楽曲の演奏 ⑤.オーケストラや楽器についてのレクチャー ※順不同 <p>【状況に応じて】</p> <p>ア 本公演で吹奏楽等との共演の場合 楽団員数名による演奏指導を行う。また、希望により吹奏楽部員への楽器セミナーを行う。（場合により指揮者を派遣することもある。）</p> <p>イ 本公演で合唱部等との共演の場合 楽団員数名とピアノの伴奏者が伺い共演のための演奏指導を行う。（場合により指揮者を派遣することもある。）</p> <p>ウ ワークショップでの楽器演奏体験 弦楽器に触れて頂き、音が出る所までを楽団員が直接指導、加えて1演目を楽団員とアンサンブル共演する。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・より近くで鑑賞していただくため、体育館ステージ下（アリーナ床面）で演奏いたします。舞台上は使用いたしません。 ・ワークショップでは（本公演も）ピアノの使用はありません。 		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

本事業への応募理由

【公演団体名

公益財団法人群馬交響楽団

】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 群馬交響楽団は、地域・自治体とともに音楽の素晴らしさを伝える事を、長きにわたり実践してきたオーケストラ団体です。戦後間もない昭和20年の楽団創設時の、生の音楽鑑賞の感動を、身近な存在として次代を担う子どもたちに体感してもらいたいとの思いのもと、昭和22年に創り上げた《移動音楽教室》は、時は流れ令和の時代の現在も、脈々とその歴史は受け継がれ現在に至ります。楽団草創期の模様は、映画『ここに泉あり』のモデルとなり、昭和30年に公開され全国的に注目を集め、翌年には文部省により群馬県が全国初の「音楽モデル県」に指定されました。当時は、故・山本直忠氏（故・山本直純氏の父）や若き頃の故・小澤征爾氏なども群馬交響楽団の《移動音楽教室》を指揮いたしました。</p> <p>昭和56年、楽団理事長に群馬県知事が就任したことにより、群馬県教育委員会の協力を得て、県内の小学校で2回・中学校で1回、在校中に生のオーケストラ演奏を鑑賞するシステムが出来上がり、より充実した《移動音楽教室》となりました。そして、翌昭和57年からは高校生も対象として、在校中に1回必ず生のオーケストラ演奏を鑑賞する、《高校音楽教室》も始まり現在に至ります。小・中学校を対象とした移動音楽教室の鑑賞者は、令和5年度までに延べ650万人を超え、楽団の根幹を成す演奏活動となっております。</p> <p>群馬交響楽団は、地方オーケストラ団体の先駆けであり、またオーケストラでの音楽教育を始めたパイオニアであると自負しております。全世界で共通の文化として、数百年もの長きにわたり人々に愛され続けるオーケストラは、異国の様々な時代や文化、情景に触れ、多様な価値観を体感できる優れた芸術です。音楽作品が生まれた当時から時は流れ、時代背景も変化を重ねインターネット等をはじめ便利になった現在の社会においても、本物の生の音楽を鑑賞する体験は、多感な子供たちにとって、感性の向上や豊かな発想力、想像力が養われることが期待され、学校教育の中でも継続した活動展開を実施していく必要があると考えております。</p> <p>本事業では、これまで培った永い経験と実績を生かして、本物の生の芸術・クラシック音楽に触れていただく機会の中で、その素晴らしさ、愉しみ、オーケストラならではの迫力やその魅力を、目で、耳で、肌で感じていただき、会場の空間全てが一体となる喜びと感動の体験を、全国各地の小・中学生、さらには地域の皆様へお届けすることができればと願っております。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>■実施する各学校の要望に合わせて様々な工夫を考えております</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演内容や選択演目のご相談、公演当日の様々な事について、専任のスタッフがトータルでご相談に応じます。 ・ご多忙な学校の先生方のお手をできる限り煩わせないよう、独自の詳細資料を準備いたしております。 ・事前のワークショップや本公演への期待が膨らむよう、楽団の掲示物を事前にお送りいたします。また、公演当日用のプログラム冊子は、本公演の事前学習および事後学習、双方にご活用いただける内容をご用意いたしております。 ・ご希望に応じて、さらなる事後学習にも繋がる映像資料のご用意も可能です。 <p>■実施校とは事前に綿密な打ち合わせを設け公演を迎えます</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップまでの間、お電話・FAX・メール、ご希望に応じてインターネット会議で打ち合わせをさせていただきます。 ・ワークショップ終了後に本公演の詳細な打ち合わせを設けさせていただきます。 ・打ち合わせ後から本公演当日までの間も、疑問点やご心配事などが出た場合は、何度でもご相談に応じます。 <p>■音楽をもっと身近に感じていただくために…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップでは、演目はクラシック音楽にとどまらず、アニメの中の音楽や日本民謡を取り入れることで、子どもたちにとって初めての生演奏鑑賞の場合でも親しみをもって聴いて学べるよう構成しております。 ・演奏者自らによるおはなしや解説を交えながら、児童・生徒を巻き込んで実施することで、本公演に対する期待がより膨らみ、充実した当日が迎えられるような仕組み作りをしております。 ・本公演当日は、ワークショップでの出演メンバーを再度登場させて事前学習を振り返り、より知識が深まるよう構成しております。 ・本公演では、本拠地での《移動音楽教室》においても数多く出演する、熟練の司会者による親しみやすいおはなしを交えて公演を進行します。「あっという間の時間だった」「もっと聴きたかった」「飽きずに聴けた」「また聴きたい」などのお声を数多く頂戴しております。
--	---